

大田区自立支援協議会 令和3・4年度 第9回地域生活部会議事録

文責：宮嶋 祐紀子  
(事務局一部修正)

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和3・4年度 第9回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和4年9月20日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	大場 貴弘	小野 英次郎	金子 正
	宮嶋 祐紀子	金丸 正明	小松代 菜央	新田 美和
	橋本 朋子	平井 有希子		
	区事務局：土岐、西澤、親跡、木村			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <p>1) 資料確認</p> <p>2) 前回回収分ご意見カードについて</p> <p>3) 編集委員の選出について</p> <p>10月19日の全体交流会に参加できる委員から選出した。</p> <p>(2) 地域課題の検討</p> <p>1) 幼少期・学齢期のまとめ</p> <p>幼少期・学齢期の課題について、これまで協議してきた内容を確認。課題抽出にあたり、「理解啓発」を大きな視点として検討。共通的な課題とスポット的な課題の抽出に至った。</p> <p>共通的な課題：「知る機会」の設定</p> <p>区内の小中学生を対象に、体験を通じた理解啓発を促す。具体的な方法としては、以下の2つ。</p> <p>1. 障がいのある人と同じ空間で、同じ時間を過ごす機会を設定。</p> <p>2. 福祉施設等での職場体験実習の実施。</p> <p>これらに取り組むことで、障がいのある人のことを知るとともに、つながりができたり、子どもたちの好奇心・興味が保護者や地域の理解に繋がっていくかもしれない。</p> <p>⇒このような取り組みを続けていくことで、10年後の大田区が、障がいのある人への地域理解がより進んでいることに期待が持てる。</p> <p>スポット的な課題：重症心身障がいのある子どもについては、ある程度の支援・相談先がラインとして機能している一方で、知的・発達の障がいのある子どもについては、相談先や必要な支援について、資源が不足していたり、上手く機能していないといった現状がある。スポット的な課題については、記録として残していく。</p> <p>2) 成人期・高齢期について共通課題の振り返り</p> <p>成人期・高齢期の抽出課題</p> <p>「マスタープラン」</p> <p>○情報の適切化(発信・収集のばらつきを整理)</p> <p>○個の理解</p> <p>「アクションプラン」</p> <p>○対応できる医療機関が少ない</p>			

○居場所づくり  
⇒成人期・高齢期に着目した課題だが、他のライフステージにも関わる内容。限定せず、大きな視点で見えていてもよいのではないか。

3) 個の情報整理による課題抽出の方向性

○「個の理解」に着目し、ヘルプカードの医療版のようなものを考えてみるのはどうか。医師会などとも連携し、地域の医療につながる手助けとなるようなものになれば。

○目黒区の居宅介護事業所分野では、既に似たような取り組みとして、シートを作成している。

○本人の様々な情報は既にヘルプカードに記載している。それとは別に医療に特化したものを考えるということか。

○医療機関の欲しい情報を事前に調査し、その内容を記載しておくことで、地域の医療機関でも受け入れてもらえるようになるかもしれない。イメージとしては、問診票のような内容。

○それがあれば、地域の医療機関でも診てもらえるというものになってほしい。せっかく検討しても、結局受け入れてもらえないのであれば、残念。

○以前、過去の専門部会（現在は無い）で似たようなことを検討したことがある。その際に医師会と連絡調整してもらっていた人が、現在、相談支援部会に在籍している。その人に、オブザーバーとして協力してもらい、話を聞いてみたい。残りの専門部会では、そのような内容で協議をしていくのはどうか。

○問診票にしてもそうだが、記入する保護者には負担がある。上記のようなツールを検討・作成するのであれば、書式の統一化を行うなど、書く価値のあるものにする必要がある。

○検討する中で、区も参画する形で作ることができれば、共通のものになりやすいのではないかと考えている。また、すぐ形にはならないかもしれないが、検討した内容を整理し、協議会の意見として提言できれば、区のプランの中に組み込んでもらえるかもしれない。

○そのようなツールは更新が必要になると思う。だれが更新するのか、どのように更新を促していくのかも検討が必要。更新を忘れてしまわないよう、リマインダとしてのお知らせなどもあるといいのではないか。

○媒体を紙ベースだけでなく、アプリのように電子化で

できれば、簡便でやりとりしやすくなるのではないか。また、受診したい側からの発信だけで医療が受け入れやすくなるのかという疑問もあるので、慎重に検討していく必要があると思う。

○メリットと課題を整理しておくことで、必要に応じて、次年度以降も専門部会で検討してもらえたらよい。

○ヘルプカードも防災部会で検討を重ねる中で、形になった。アクションとしてやってみるのはいいと思う。医療への理解啓発にもつながるのでは。

○城南特別支援学校に通っているような、重度障がいの子どものケースでは、どのようにつながったかはわからないが、医療機関や地域に繋がれているケースもある。

○そのようなケースについて、知ることも地域課題を検討していくにあたり、有意義だと思う。

<事務局> 年内の開催回まで検討することは可能。年明けからまとめに入れたらいい。

## 2 その他

### ・事務連絡

次回専門部会：10月27日

全体交流会：10月19日 ※10日までに出席を事務局に報告。

以上